

【総合的な学習の時間】提案

探究する学びを創る

－“ほんまもん”体験を通して Change する子ども－

1. 研究テーマ設定の理由

(1) 学校提案とかかわって

総合的な学習の時間（以下文中は、総合とする）は、子どもたち自らが課題を設定し、そして解決する学びを繰り返し行っていくことである。本年度総合部では、そのプロセスにおいて「探究する学びを創る」ことを研究のテーマとした。答えが多様な課題に対して、みんなと協力し、互いに知識や知恵を出し合いながら解決していく学びを創っていく。

“ほんまもん”とは、関西弁で本物という意味である。私たちのふるさと和歌山は、自然、歴史、文化、伝統産業などの本物に触れることができる“ほんまもん”体験の宝庫である。この“ほんまもん”体験を通して、子どもたちは自らが学ぶ対象と出会う。そして、この出会いから探究する学びへと発展させていくために必要なことは「対話」である。

「対話」の基本は、「変わる」ことができる自分を前提としてもつことである。自分の価値観だけでやりとりをする「会話」、価値観の対立でやりとり（たたかい）をする「討論・議論」、これらとは違い「対話」は価値観の違いを楽しみ、それを受け入れ、歩み寄りのプロセスを大切にしている。また、総合での取り組みは、何かを「変える」可能性を秘めている。そこで、本校の総合のネーミングを「CHANGE」と設定した。

このように「CHANGE」とは、学校提案で述べられている「対象・他者・自己への認識を更新すること」であり、「Change する」とは、まさに学びの質が高まることを意味する。

(2) 総合的な学習の時間でめざす子ども像

みんなと協力して、想像的に創造して課題を解決できる子ども

答えが多様な課題に対して、自分一人では解決できないことが、他者との多様な考えを共有し、試行錯誤することで対象への新しいとらえ方の視点が生まれ、解決へと導かれる。

まずは想像から生まれる発想を大切にする。想像であるため多様な発想を出し合うことができる。そして、それらの発想の根拠をさぐっていく。自分たちの発想が解決策へとつながるかどうかを判断する。自由な発想のため、自分の発想を他人が発展させることもできるし、自分とは発想が異なっていたとしても、素直に「どうしてそう考えたの？」と聞きやすい。

こうしたやりとりの中で、対象に対する見え方が違ってきたり、新たな発見をしたりして、創造しながら課題解決のプロセスに参加できるのである。

2. 総合的な学習の時間における「学びの質の高まり」

総合における「学びの質の高まり」とは、自分の中に新しい世界が生み出されることである。新しい世界とは、考えの広がりや深まり、新たな視点が生まれたり、出会い直しがあつたりと、

子どもたち一人ひとりによって、さらには毎時間ごとによってちがいがあある。そのため、子どもたちが発する一つ一つの言葉を分析していかないとわからないものである。

3. 研究の展望

(1) Changeするための表現活動の工夫

「対話」を行っていくためには、互いの思考をみえる形で表現していかなければならない。動機付けと振り返りを大切にした“ほんまもん”体験では、自らがどのようなことに気づき、何に追究していきたいのかということを出し示さなければならない。それらを自分たちが得た知識や技能を結びつけて、ペア、小グループ、そして全体へと発信していくために有効な表現活動を探っていく。

(2) 学校カリキュラムの作成

総合での成果を生み出すためには、学校全体としての目標や内容を明確に設定し、必要な力が子どもたちに付いたかについて検証・評価を行わなければならない。また、教科との関連に十分配慮し、適切な指導が行われていかなければならない。そのため、図1に示した育てたい力を明確にした実践を行っていく、カリキュラムを作成していくこととする。

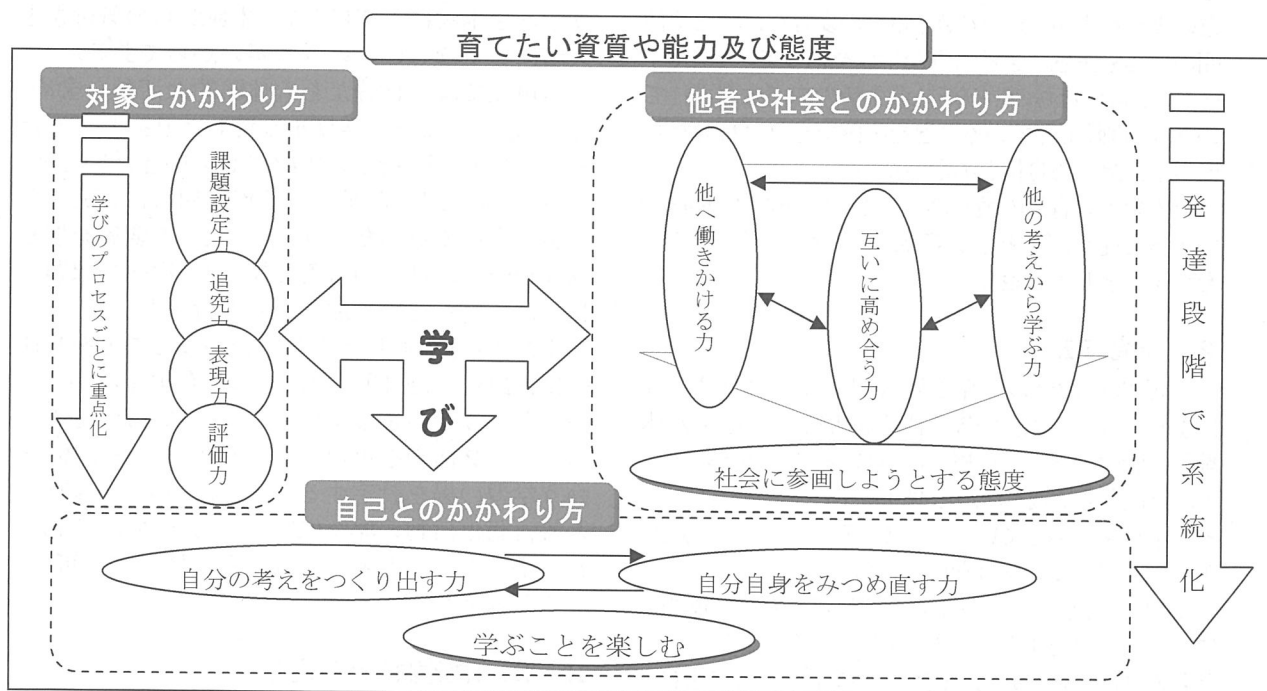


図1 「総合的な学習の時間」における育てたい資質や能力及び態度

4. 研究の評価

子どもたち一人ひとりの思考を可視化する表現活動の工夫により、探究する学びがどのように創られていくかについて、子どもたちのやりとりの記録、ノート等の分析により明らかにする。また、「対話」を深める有効な手だてとして、ペア、小グループ、全体での場面において、どのような活用が望ましいかをまとめる。